

東北地方 1か月予報

(10月7日から11月6日までの天候見通し)

平成18年10月6日
仙台管区気象台発表

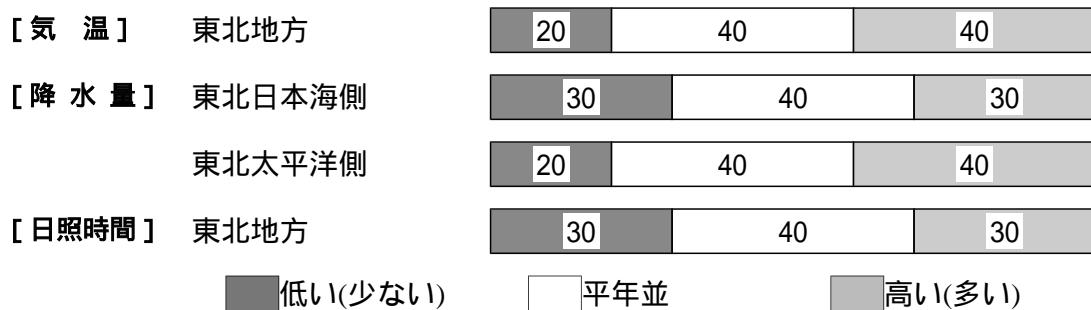
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。平均気温は平年並または高い確率がともに40%です。降水量は東北太平洋側で平年並または多い確率がともに40%です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率が50%、2週目は平年並の確率が50%、3~4週目は平年並または高い確率がともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

- 1か月 : 10月 7日(土) ~ 11月 6日(月)
1週目 : 10月 7日(土) ~ 10月 13日(金)
2週目 : 10月 14日(土) ~ 10月 20日(金)
3~4週目 : 10月 21日(土) ~ 11月 3日(金)

<次回発表予定等>

- 1か月予報: 毎週金曜日 14時30分 次回は10月13日
3か月予報: 10月25日(水) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	11.4	113.1	144.5	13.7	12.3	10.3
深浦	12.2	160.2	125.6	14.4	13.1	11.2
むつ	11.0	112.5	154.8	13.3	12.0	10.0
八戸	11.5	76.9	163.2	13.8	12.5	10.4
秋田	12.4	162.5	138.5	14.7	13.3	11.3
盛岡	10.5	99.0	146.4	13.0	11.5	9.4
大船渡	12.6	134.3	148.7	14.8	13.5	11.6
宮古	12.0	101.4	157.9	14.2	12.9	11.0
仙台	13.7	91.7	154.6	15.9	14.6	12.6
石巻	13.0	97.2	161.6	15.3	14.0	11.9
山形	11.9	75.6	129.7	14.4	13.0	10.8
新庄	11.0	162.8	98.8	13.6	12.1	9.9
酒田	13.5	180.2	134.2	15.7	14.4	12.5
福島	13.6	87.5	143.1	15.9	14.5	12.5
若松	11.9	73.0	117.6	14.5	12.9	10.6
白河	12.1	97.6	149.2	14.3	13.0	11.0
小名浜	15.0	137.5	160.7	17.1	15.9	14.0

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6 ~ +0.4	82 ~ 111	96 ~ 105
東北日本海側	-0.6 ~ +0.4	89 ~ 108	96 ~ 104
東北太平洋側	-0.5 ~ +0.4	67 ~ 120	97 ~ 105

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7 ~ +0.6	-0.8 ~ +0.5	-0.6 ~ +0.5
東北日本海側	-0.7 ~ +0.6	-0.8 ~ +0.6	-0.6 ~ +0.5
東北太平洋側	-0.6 ~ +0.6	-0.7 ~ +0.5	-0.6 ~ +0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を受けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成18年10月6日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(10月7日~11月6日) :

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

1週目(10月7日~10月13日) :

期間のはじめは低気圧の影響で雨の日がありますが、その後は高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。東北日本海側の北部を中心に期間の中頃にかけて、気圧の谷や寒気の影響で曇りの日が多い見込みです。

平均気温は平年並の確率が50%です。

2週目(10月14日~10月20日) :

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北地方は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の確率が50%です。

3~4週目(10月21日~11月3日) :

低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化するでしょう。東北日本海側では平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

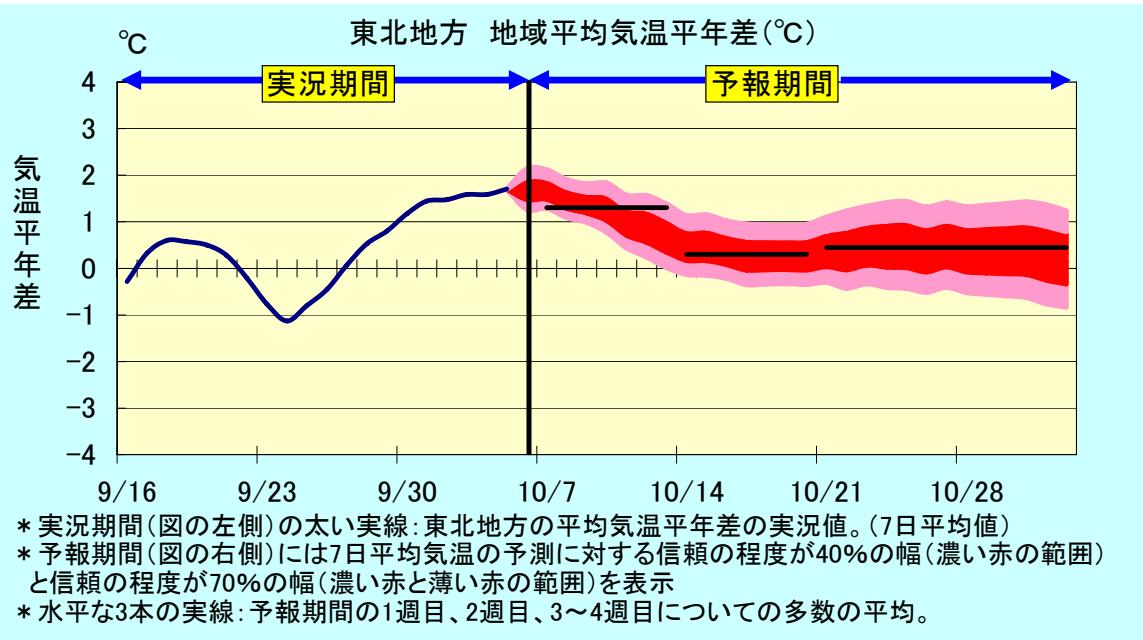
平均気温は平年並または高い確率とともに40%です。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.9日	3.3日	3.4日	6.2日
東北太平洋側	16.4日	3.7日	4.1日	8.6日

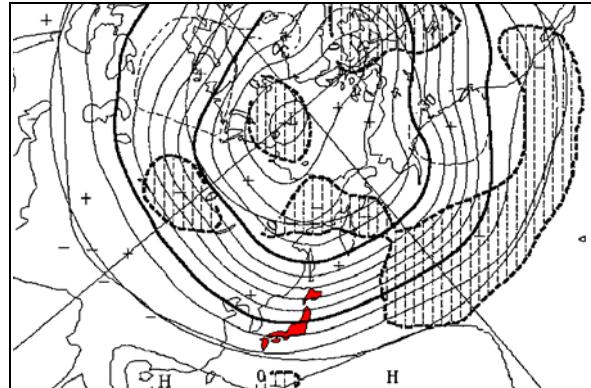
2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別のアンサンブル平均気温は、1週目は平年を上回り、2週目は平年並、3~4週目はやや平年を上回ると予測しています。予報はその他の資料から、1週目の「平年並」の可能性を大きくする。なお、数値予報の信頼度は小さい。



2. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500 hPa 予想天気図)

1か月平均: 日本付近は広く正偏差に覆われる。日本の南海上に負偏差が分布。太平洋中部から東部の中緯度帶は負偏差。このため、気温は平年並か平年より高くなる可能性が大きい。日本付近の偏西風の流れはほぼゾーナル。このため、低気圧と高気圧が交互に変化し、天気は周期的に変化する見込み。



1か月平均 500 hPa 予想天気図

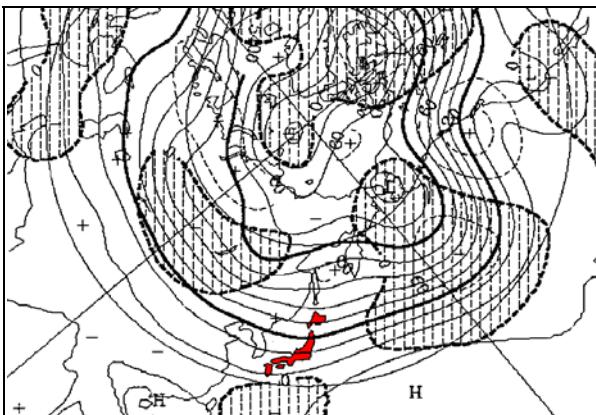
(図の見方は1, 2週目と同じ)

ただし平年差の間隔は 30m 毎)

1週目: 日本付近は正偏差でオホーツク海付近で明瞭。一方、日本の南海上は負偏差。南海上の負偏差は熱帯擾乱に対応。偏西風の流れはほぼゾーナル。気温は平年並になる可能性が大きい。

2週目: 日本付近は引き続き正偏差。日本の南海

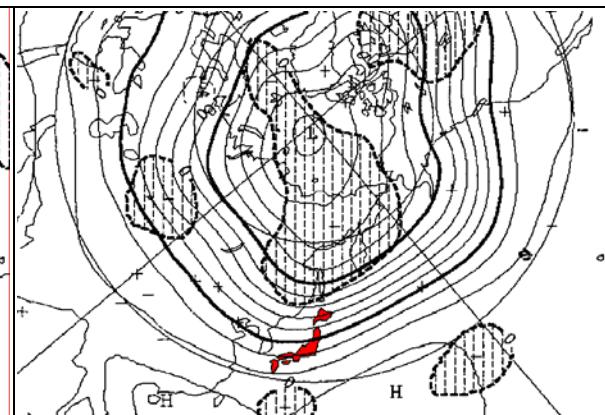
上は引き続き負偏差だがその範囲は縮小。オホーツク海付近は負偏差に転じる。日本付近の偏西風の流れは引き続きほぼゾーナルで、天気は周期的に変化する見込み。



1週目平均 500 hPa 予想天気図

実線は、等高度線（間隔 60m）、点線は、平年差（間隔 60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する



2週目平均 500 hPa 予想天気図

白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (9月29日～10月5日) の天候の経過

この期間、気圧の谷が周期的に通過したため、天気は周期的に変化した。2日から3日、5日は気圧の谷の通過や低気圧の影響で曇りや雨となった。

平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。

